

令和3年度糸島市協定大学等課題解決型研究事業 研究成果ダイジェスト版

研究タイトル

糸島市の観光入込における小規模飲食業などの創業及び定住要因と市内経済発展への影響に関する調査研究

研究者名

九州大学大学院 比較社会文化研究院 阿部康久

研究期間

令和3年6月1日 ～令和4年3月31日

研究計画の内容

観光入込客数の増加は「見て帰る」ではなく、地域内にしっかり「消費を取り込む」飲食店、飲食料品製造・販売業などの存在に目を向ける必要がある。また地域経済の持続的発展において、これらの新たな立地やこれまでなかった業態・活動といったイノベーションが連続的に起こることが重要である。

糸島市では、2000年以降から沿岸部や中山間地域に立地している飲食店、ランチを提供する宿泊施設、牡蠣小屋、パン・菓子製造販売といった市内全体に広がるイノベティブな人材の集積が目立ってきた。個人事業主として企業ではなく「人」の動機や性格に着目し、アンケート調査によって、以前から立地したり、中心市街地に立地したりする事業主と、新しく周辺部に移住、創業した事業主との特徴比較を行うなど、移住、創業、その後の定住要因を明らかにする。

その上で、地域発表会により結果を報告するとともに、参加者、ヒアリング対象者などと議論を深め、要因を検証する。

研究成果の概要

糸島市における観光産業の集積過程及びその経済効果を調べることで、観光客の増加とともに、市内での産業内の立地変容を起こし、300人以上の雇用を生み出したことや労働生産性を高めてきたことが明らかになった。

また、移住・起業家の移住および定住後の満足度を高める集積の要因について、アンケートによるデータを収集した。これにより、移住・起業家にとって「観光や移住イベント」によるPRは効果が高いこと、「福岡市の近接性」、「自然環境」といったことが移住前の動機になること、「糸島暮らしのPR、観光や移住の体験」を必要とすること、「地域活性化用途での空き家マッチング」の需要が高いこと、「人脈・交流の促進、寛容性や多様性の醸成」が定住や他人への推奨、そしてさらなる地域活動の活性化につながることを明らかにしたことで、今後の市の産業振興や移住政策の方向性を提案した。

研究成果

研究報告書及び啓発のためのフォーラム動画

糸島市における観光産業の経済効果

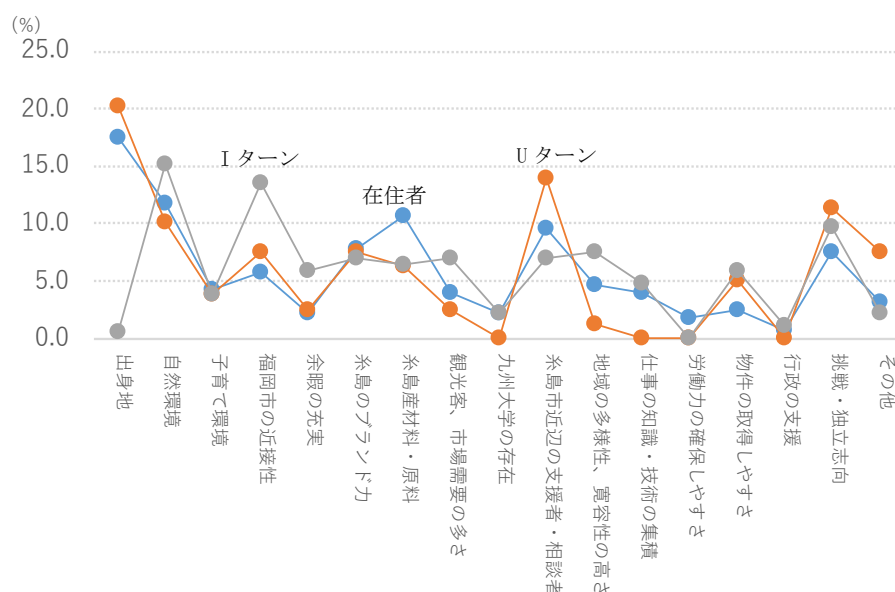
2005 年からの 10 年間で他の産業は雇用が減少している傾向がある中、飲食店、宿泊業は 339 人も雇用が増えている。また総生産額を従業者数で除した労働生産性については、2006 年の 260 万円／人から 2016 年では 330 万円／人と 10 年で 70 万円／人も増加している。2016 年の福岡県平均は 208 万円／人、全国平均は 210 万円／人であるため、糸島市の 330 万円／人は非常に高いといえる。

産業分類別の雇用人数及び構成比の推移

産業別(大分類)		2005年		2015年	
		実数 (人)	構成比 (%)	実数 (人)	構成比 (%)
総	数	46,848	100.0	45,717	100.0
農	業	4,301	9.2	3,533	7.7
林	業	18	0.0	24	0.1
漁	業	483	1.0	369	0.8
鉱	業	7	0.0	9	0.0
建設	業	4,935	10.5	4,130	9.0
製造	業	4,077	8.7	3,804	8.3
電気・ガス・熱供給・水道	業	214	0.5	257	0.6
情報通信	業	1,138	2.4	1,160	2.5
運輸	業	2,287	4.9	2,122	4.6
卸売・小売	業	8,833	18.9	7,572	16.6
金融・保険	業	1,177	2.5	983	2.2
不動産	業	641	1.4	881	1.9
飲食店、宿泊	業	2,200	4.7	2,539	5.6
医療、福祉		4,890	10.4	6,059	13.3
教育、学習支援	業	2,065	4.4	2,154	4.7
複合サービス事業		713	1.5	596	1.3
サービス業(他に分類されないもの)		6,977	14.9	6,327	13.8
公務(他に分類されないもの)		1,461	3.1	1,335	2.9
分類不能の産業		431	0.9	1,863	4.1

糸島市在住者・Uターン者・Iターン者の出店理由の比較

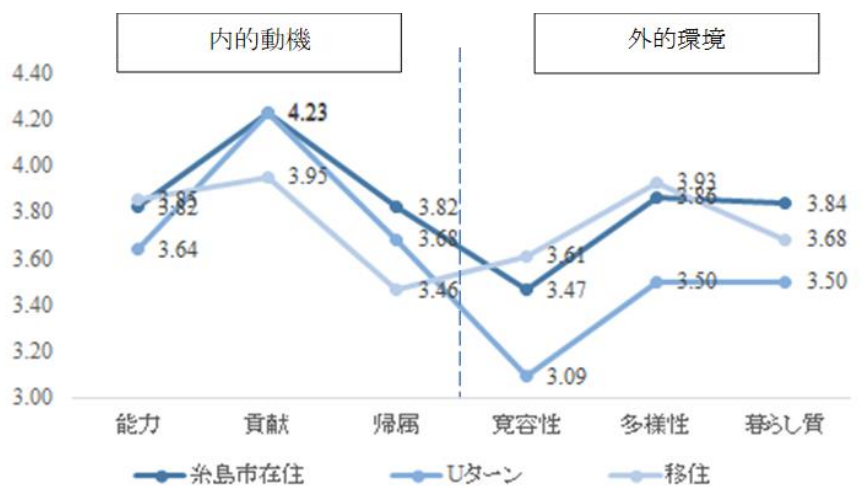
糸島市在住者やUターン者は、出身地という出店理由が大きい。またUターン者は戻ってくる際の支援者・相談者の存在が大きいことが他の出店者に比べ大きな理由になっている。UターンやIターン者は在住者と比べ独立・挑戦志向が高い。Iターン者は自然環境、福岡市の近接性、観光客・市場需要の多さ、余暇の充実、地域の多様性・寛容性の高さが他者との差が大きい。



出店後に糸島市で感じたこと

糸島市在住者とUターンや移住（IターンやJターン）が出店後に糸島市で感じていることを「能力の発揮」「地域貢献」「帰属意識」「寛容性」「多様性」「暮らしの質」の項目について、それぞれ5段階（1～5点）で評価をしてもらった。前者の3つの項目は出店者側にある「内的動機」、後者の3項目は出店者の「外的環境」として糸島市側に存在する要素に分けられる。

糸島市在住やUターンをした人は、移住した人より地域貢献（ともに 4.23）や帰属意識は高いが、能力を発揮したいという気持ちは移住者（3.85）の方が高い。また地域側の寛容性（3.61）や多様性（3.93）を感じているのも移住者の方が高い。すなわち、移住者（Uターンを除く）は、移住先で能力を発揮したいという願望を受け入れてもらえる寛容性や多様性が高い地域とよりマッチングすると考えることができる。糸島市在住やUターンをする人は、このような移住する側の活動に対して排他的にならず、また移住する側も旧来のコミュニティに対する理解を深めるといった相互の理解調整が重要であることが指摘できる。



移住・起業フォーラムの開催

研究結果について、パネリストや参加者から批評してもらうことで、①新たな研究視点を得るとともに、②糸島市（地域）への研究成果の還元や共有し、今後の③地域実装に向けての展開可能性等についての知見を得ることを目的として、令和4年1月17日、「みんなの」にてフォーラムを開催した。事前にチラシを作成し、ホームページやSNS、商工会メルマガなどで、移住希望者や起業家、地域振興活動に関心の高い人などに参加を呼びかけ、当日は18名の参加があった。

当日の動画はURL (<https://youtu.be/hKhUB-7Jfuo>) から閲覧可能。

当日の様子



事前に配布したチラシ

移住・起業人材フォーラム 2021
～なぜ糸島市に人材が集まるの？～

「糸島市に移住・起業した理由とは？」「他の場所との違いは？」「なぜ移住・起業者に引き寄せられる？」といった、移住者と地域関係の両面から当事者の心づかいを明らかにしていきます。空き家を借りて移住・起業したい人、実際に移住してみたい人、実力に応じて移住先を模索する人、ぜひ会場にお越しください。

 平野 圭氏 / タンザバダー レストラン経営者として、2011年に糸島市に移住。その後「成功の秘訣は、人気店での移住と地元の心算」という考えで移住や起業を学び、2016年に起業。起業家と地元の関係性を構築し「糸島の魅力を地域一帯から広げる」という目標を掲げ、地元での発展を促している。	 渡井 航氏 / デジタルファブニチャー 福岡県出身。福岡で移住した。2011年に糸島市で移住。小さな移住やデジタルファブニチャーから、大きな移住まで地元・糸島、シニアなファブニチャーに発展し移住者や地元の人々で、移住の魅力を広げている。	 有田ゆかり氏 / 有田クリニック 福岡県出身。糸島市で移住。移住先として「糸島」として移住。糸島市で移住した理由として「糸島」として移住。糸島市で移住した理由として「糸島」として移住。糸島市で移住した理由として「糸島」として移住。
--	---	--

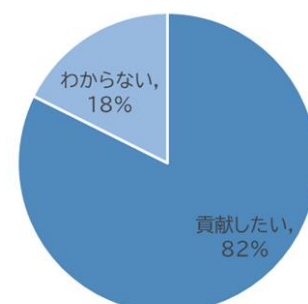
研究結果として、糸島市の移住・起業家や空き家オーナーへのインタビュー結果も紹介！

■日：2021年1月17日（月） 18:30開場 / 19:00開始 / 20:25閉会
 ■場：有・みんなの（糸島市立図書館糸島分館）
 ■参加費：無料（定員20名／事前申し込みの方優先）
 ■申し込み：お申し込みフォーム <https://forms.gle/7WZm9yWt9pK7>
 ■申し込み：お申し込みフォーム
 ■お問い合わせ先：九州大学大学院経済学系 准教授 河野大介 / 博士後期課程2年 岡 竜樹 (okagaki.ryu@u-gakyo.ac.jp)
 ■お問い合わせ先：九州大学 九州大学（糸島市立大学等）研究開発部 研究推進課（P1）としまち（P2）共同研究
 ■お問い合わせ先：九州大学 九州大学（糸島市立大学等）研究開発部 研究推進課（P1）としまち（P2）共同研究

18:30～19:00 開場・受付開始 19:00～19:15 パネルディスカッション
 19:15～19:30 開会 20:10～20:25 会場閉会
 19:30～19:45 研究発表（開） 20:25 閉会
 19:45～20:00 懇話会

アンケート結果

「糸島市が活性化するにつれて自分も地域貢献したい気持ちが高まるか」という質問に対し、82%が貢献したい気持ちが高まると回答した。「糸島市の魅力を向上させたい」、「地域へ恩返ししたい」、「人材の多様性を持続、発展したい」という理由が聞かれ、観光などで地域活性化が進むと、貢献意欲が人から人へ波及する効果がうかがえる。



糸島市の移住・起業者の増加のために重要な要素（階層クラスター分析，N=16）

クラスター	頻出語（出現数）	対応する記述の例
場所の確保しやすさ	住む(2)，場所(3)，補助(2)，空き家(2)	・ 住む場所、事業所の家賃補助 ・ 人はキーマン、モノは糸島ブランド、カネは補助金 ・ 人脈、起業できる場所・物件 ・ 空き家の利活用、使い方の提案 ・ 空き家バンクの一層の充実
移住・起業者にとっての地域との打ち解けやすさ	コミュニケーション(2)，コミュニティ(2)，移住(3)，起業(3)，空き家(2)，人(6)	・ 昔から住んでいる人との共創やコミュニケーションがとりやすいこと ・ 助け合う、支えあうコミュニティ ・ 起業志望者、移住希望者の交流イベント、コミュニティ ・ 移住は大きくは働く所がもっと必要 ・ 移住を考える人と起業している人とのマッチングシステム ・ 頑張っている人同士が自然とつながるようなプラットフォーム ・ とつつきやすい人や情報。

糸島市への移住・起業者における行動変容と想定される政策

糸島市では，この全段階において途切れなく政策を打つことが今後さらなる人材の集積を促し、地域経済の発展にもつながると考えられる。

行動変容モデル	糸島市の政策
注意・喚起	継続的な観光や移住イベント
興味・関心	福岡市の近接性，自然環境，食のPR
動機向上	糸島暮らしのPR，観光や移住の体験
行動	空き家などの確保，活性化用途マッチング
定住・他人への推奨	人脈・交流の促進，寛容性や多様性の醸成